

## 進捗状況の概要【1 ページ】

本事業において、本学では「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現するために中心となる、グローバルヘルス推進人材を育成する」を構想目的とし、目的達成のための取組として「ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革」を行い、「教育改革」および「海外拠点を活用した積極的な教育研究展開」を推進している。

構想実現のための基盤となる体制構築「ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革」の進捗状況：

- 学長のリーダーシップの下、教育改革および大学国際化を進めるためのガバナンス強化を目的として、全学的組織である「統合教育機構」と「統合国際機構」を平成 27 年度に設置、理事を機構長とし、学内に散在した人的資源(教員および職員)を集約し、本事業推進および教育および国際化に関する大学理念実現に向けて取り組んでいる(詳細は「特筆すべき成果」欄に記載した)。

「教育改革」の進捗状況：

- 【学士課程】統合教育機構の指示および指導のもと、本事業構想が反映された第3期中期目標達成のための中期計画の一環として、学士課程各学科専攻においてディプロマポリシーおよびアドミッションポリシーの見直しを行い、特に後者にもとづき平成 29 年度入試(平成 30 年度入学)より特別選抜として推薦入試、国際バカロレア入試、帰国生入試を導入することとした。教養教育において、平成 28 年度より人文社会系科目を中心に二カ国語履修化を開始、更なる拡大をはかっている(平成 29 年度は 16 科目)。教養/専門課程を通して、英語系科目や PBL 実施科目などにおいて非常勤教員や大学院在籍留学生の TA 動員により少人数学習環境創出に努めている。また、統合教育機構が中心となり全学的なアクティブラーニング導入推進にあたり(詳細は「特筆すべき成果」欄に記載した)、それと平行して学生の自主学習時間確保のために授業時間の見直しを行った。海外提携校増数および海外拠点の積極活用により、従来の研究実習/臨床実習に加え、低学年学生の視野拡大/ゴール設定を目的としたアジア諸国での医療や学生交流研修など新規プログラムを創出し、海外経験者の増数をはかっている(卒業生にしめる海外経験者は「大学独自の成果指標と達成目標」欄に記載)。さらに、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野においてグローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材の育成を目的とする完全英語履修のリーダー養成選抜プログラム Health Sciences Leadership Program (HSLP)において、正規履修生(フルメンバーシップ)枠を拡大するとともに、履修可能科目数に制限を設けながら履修時期に自由度をもたせたアソシエイトメンバーシップ(アソシエイト)を新たに設立、より多くの学生に参加機会を提供している(履修生数は「大学独自の成果指標と達成目標」欄に記載)。
- 【修士/博士課程】統合教育機構の指示および指導のもと、ディプロマポリシーおよびアドミッションポリシーの見直しを行った。特に後者にもとづき平成 29 年度入試(平成 29 年度入学)より英語力の多角的評価のため TOEFL-ITP を外国語試験に導入した。留学生が在籍する分野、または希望する学生がいる分野においては、コースワークを英語化し(平成 29 年度開設科目の 58%が英語履修可能)、外国語のみで卒業できるコースも増数(平成 29 年度は 10 コース)している。統合教育機構主導にて、上述した HSLP の大学院版(G-HSLP)を、ニーズ調査を踏まえ平成 28 年度に開講、同年度には 2 つのワークショップを実施し平成 29 年度よりコースワークを開講した。本構想の旗艦的取組である「グローバルヘルスリーダー養成コース(仮称)(修士/博士課程)」の開講(平成 30 年度に修士コース、平成 32 年度に博士コースを開講予定)に向け、体制準備とカリキュラム策定を進めている(米国公衆衛生大学院での取組の調査、必須/選択科目および研究内容の検討、講師確保など)。また、平成 28 年度に、チリ大学およびチュロコン大学とジョイント・ディグリープログラムを開設した。

「海外拠点を活用した積極的な教育研究展開」の進捗状況：

- 拠点増数戦略基準を「海外教育研究協力拠点となるフィールド機関を、フィールド基盤型研究体制構築可能性、複数の研究プロジェクト実施可能性、二次データ取得体制、そして国際共同研究推進体制整備という点から、戦略的に選定し増数する」と設定し、米国の大学を中心に調査を開始した。今後は機関間国際交流協定を締結し学生派遣交流や共同研究を活発化させることにより拠点化を目指す(平成 27 年度には同目的でネバダ大学リノ校医学部と協定を締結)。なお、本学では現在ガーナ、チリ、タイに 3 つの海外拠点を設置しているが、学生の英語圏における臨床研修や研究の場を広げ、学生・教職員の国際的な交流を一層推進することから、第 4 の候補としてアメリカに拠点を設けることを検討している。
- 統合教育機構内にグローバル教育推進チーム、統合国際機構内に海外拠点チームを設置し、グローバルヘルス教育カリキュラム開発/実施および本学海外教育研究協力拠点を活用した積極的な教育研究展開推進の支援/先導を連携して進めている。

「国際的評価の向上」「国際的評価に関する教育・研究力(国際的評価にて強みのある分野の有無)」の進捗状況：

- 平成 26 年度世界大学ランキングから順位をやや落とす結果となったが、これは論文引用に関わるスコアの算定方法が変更になり、生命科学・医学分野の論文引用が低く算出されるようになったことによる。しかしながら、学生数に対する教員数の割合の高さや、論文の被引用回数の多さ、特許数などの教育・研究の質を示す指標は高く評価されており、平成 29 年 3 月 7 日に発表された学生数 5,000 名以下の大学を対象としたランキングである THE World's Best Small Universities 2017 では世界 17 位、日本 1 位、平成 29 年 3 月 8 日に発表された分野別のランキングである QS 分野別世界大学ランキング 2017 では医学分野が世界 101-150 位、日本 4 位タイ、歯学分野が世界 3 位、日本 1 位を獲得している。

「共通の成果指標と達成目標」の進捗状況：

- 数値目標が掲げられた項目についてはほとんどで目標を達成している。目標達成に至っていない若干項目についても著しい目標からの乖離はなく、今後の取組推進により計画されている目標の達成が十分見込まれる。さらに、数値目標が掲げられていない項目についても、2023 年度までの目標達成に向けて着実に取組を進めている。

「大学独自の成果指標と達成目標」の進捗状況：

- 【全大学院生に占める外国人留学生の割合】は、取組を推進し、目標を計画通り達成している。【(学士)卒業生に占める海外経験者の割合】は医学部は目標を達成、歯学部/保健衛生学科は目標を大きく上回っている。非常に挑戦的な平成 35 年度目標の達成にむけ、全学および各学科の両レベルにおいて、今後のさらなる増数に向けた計画を進めている。また、【HSLP 履修者数】は、学士課程版の拡大とともに大学院版開講が予定通り平成 28 年度に行われ履修者は増数されたが、わずかに若干平成 28 年度目標達成に至らなかった(平成 29 年 5 月時点で既に平成 28 年度目標を達成している)。平成 35 年度目標の確実な達成にむけ、予定されている今後の大学院版 HSLP の拡大を着実に挙げる。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1 ページ】

■ 統合教育機構・統合国際機構の設置

学長のリーダーシップの下、下記を効率的・効果的に進めるための全学的組織として、統合教育機構および統合国際機構を平成 27 年度に設置した。統合教育機構には教育担当理事/副理事に加え既存教育関連部局および各部局の教育開発人材を、統合国際機構には国際展開担当理事に加え国際化/国際展開/グローバル教育にあたる外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を配置し、下記目的達成のための様々な案件に取り組む複数のチームをそれぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想の推進にあっている。

■ アクティブラーニングの全学レベルでの導入推進

第 3 期中期目標期間における重点的取組事項として「教養教育科目及び学士課程課程授業科目のアクティブラーニング導入率 100%」を達成指標として掲げ、上記統合教育機構内「教育技法開発チーム」において平成 28 年度にまずアクティブラーニングの定義を決定した。平成 29 年度よりその導入拡大のための教材作成支援や教育方法習得のための教員研修を開始する。また、アクティブラーニング導入を推進するため、全学科で使用可能な講義室として「M&D タワー4 階アクティブラーニング教室」を平成 28 年度に整備した。この教室は平成 29 年度から学士課程授業で稼動しており、学生相互の討論や双方向型授業のより一層の推進が期待される。

■ 人種/文化的多様性に富む学習環境の創出

国民の健康増進を担う医療系専門職業人養成という使命を追求する本学学士課程は外国人留学生も少なく、また必須カリキュラムの過密さのため海外留学に対する柔軟性も高くない。他方、本学修士/博士課程はアジア/太平洋地域を中心に多くの留学生、特に博士課程医歯学領域では国内トップの数を誇っている。そこで、医学/歯学の発展と世界規模での健康レベル向上という同じ目標を持つ仲間とのコミュニティ・ネットワーク形成を目的として、本学日本人学生と留学生が混成小グループで国際保健問題について様々な視点から英語で議論し交流する”Discussion Café”を定期的実施している。学生による実行委員会を組織し、彼らが企画/運営を主体的に行う形をとることで、より相互的で多岐に渡る思考の場が提供できている。また、様々な学士課程学生対象グローバル教育取組に、修士/博士課程留学生をチューターとして参加させている。彼らの豊富な経験に触れることで、学士課程学生における多文化的理解を深め、視野の拡大が可能になった。学士/修士/博士課程を超えた全学的な取組を行い、人種/文化的多様性に富む学習環境の創出に努めている。

■ 医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質認識とゴール設定のための英語模擬交渉ワークショップ

学士課程全新生を対象に、国際保健問題に関しての英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)を毎年初夏に開催している。外国人留学生らの協力を得て人種/文化的多様な環境を創出、混成小グループで、それぞれが異なる立場を取り、問題解決のための交渉を英語で行う。参加は任意だが、参加を海外留学プログラム応募等の必須要件とするなどのインセンティブ化を図り、全新生の半数以上が毎年参加している。高大連携先高等学校からも参加を受け付けており、毎年 20~30 名ほどが参加している。事後調査では参加者における語学力/批判的思考力などグローバル人材に必要なスキルの必要性の認識が高まったことが示され、満足度もとても高い。外国人留学生との交流を通じ、諸問題を解決するために相互協力していく過程を学ぶことに加え、参加者は学習の初期段階から自身の長所と短所を把握でき、適切な目標設定が出来ている。

■ 海外経験者増数のための工夫

(医学部医学科および歯学部歯学科)

必須カリキュラムの過密さのため長期間の海外留学は年単位の休学をしない限り難しい中、きめ細かな指導を受けられ、将来のキャリア構築にとって効果の大きな形として研究実習および臨床実習という留学形態を考案、実現のためのカリキュラム調整を行ってきた。医学部医学科においては、臨床実習留学の留学先確保のため米国医科大学協会が設立する海外学習機会提供ネットワーク(Global Health Learning Opportunities, GHLO)に加盟、個別機関間協定を要せず質保障された豊富で多彩な海外臨床実習プログラムの提供を可能とし、また学士課程における海外からの留学生増数にもつながる。さらに同学科では低学年学生を対象に、長期休暇期間中にアジアにおける本学協定校および関連医療機関での医療実態把握およびボランティア活動などを行うプログラムを平成 28 年度より開始し、学科内海外経験者が大幅に増数された。

(口腔保健学科口腔保健工学専攻)

全学生に台湾への海外特別研修(台北医学大学訪問、英語での発表、カービングコンテスト)を行っている。事前に研修も行い、専門分野に関しても全学生に国際感覚を涵養することができている。

■ リーダー養成のための英語選抜プログラム

生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野においてグローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成するために、完全英語履修のリーダー養成選抜プログラム Health Sciences Leadership Program(HSLP)を開講している(学士課程版を平成 25 年度に、大学院生版を平成 28 年度に開講)。プログラムでは医学知識に加え、関連する政治・経済・哲学・社会学など社会科学系知識とその応用力、批判的思考力、探求・分析力、口頭/文書コミュニケーション能力、創造的思考力、リーダーシップスキルなどを含む明確な修了時コンピテンシー設定のもと、ケースメソッドを用いた効果的な自己主導型学習に基づくカリキュラムを統合教育機構/統合国際機構が協働して構築/運営している。

■ 海外で活躍する本学卒業生による英語プレゼン指導

欧米のトップ機関で教授として活躍する本学卒業生を特命教授として任命し、定期的に招聘し、グローバル教育およびグローバルキャリア形成支援の為の特別セッションシリーズを開催している。前者として、特に修士/博士課程学生を対象とした英語による研究プレゼンテーションの個別指導をシリーズとして毎年複数回開催している。学会発表などの実需にもとづく博士課程学生の参加が多く、満足度も非常に高い。